

阿南市立大野小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「チャイムスタート」で授業を始め、自主的に学習に取り組む児童の育成
- 根気よく丁寧に取り組む児童を育成し、基礎・基本の確実な定着を図る

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 谷 明日香	委員 校長・総括 : 早川 和美 教頭・総括補佐 : 福島 浩三 教務主任 : 枝川 弘明 研修主任 : 小川 英子 特別支援コーディネーター : 米田 美貴
------------------	--

校長

早川 和美



○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研修での教員からの報告や管理職による授業参観等、様々な機会に取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや音読・計算などの力が向上してきた。 ●学力差があり、定着の難しい児童もいる。字形を整える意識の低い児童、既習漢字を適切に使用して文章を書くことに課題のある児童が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・読書に親しみ、豊かな言語力が身につけている。	・ICTを利用した授業を行ったり、週1回以上、ノート点検をしたりするなどし、学習環境や学習規律を整える。 ・「こども鳴潮」を活用したり、辞典を使って調べることを習慣づけたりする。 ・学年末に漢字検定・算数検定を実施し、定着度を確認する。	・ノートの点検はこまめに実施。 ・ICTはほぼ毎日活用している。 ・国語の系統的な学びができるよう、検討していく。 ・「こども鳴潮」を効果的に活用できるように、工夫が必要。(実施回数、時間の取り方など)	・漢字の読み書きや音読、計算などの基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができたが、個人差が大きい。 ・読書を促し、文字を読む機会を増やしたことで文章を読む力がついてきた。しかし、まだ進んで読書をする習慣が身につけていない児童もいる。	・引き続き、自ら読書に親しむ児童を育てる。 ・豊かな言語力の育成。 ・「こども鳴潮」がうまく活用できなかったことで、活用方法を考え直す必要がある。(実施学年の変更、違う視写学習の方法に変更など)

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の方法や手順が分かる学習に関して、意欲的に発表し、真面目に取り組んでいる。 ●自分の考えを文章に書いてまとめたり、順序立てて説明したりすることに課題がある。	・思考ツールを使って考えたり判断したりすることができる。 ・自分の言葉で、考えやその理由を話したり書いたりすることができる。	・ホワイトボードの活用を充実させ、全ての教科において、自分の考えを表現させる時間を設ける。 ・デジタル教科書やタブレット、パソコンのソフト等を積極的に活用し、表現力や思考力の向上に努める。	・授業中のホワイトボードの効果的な活用方法を探究する。 ・発言者はクラスを中心へ向けて話し、聞き手は発言者に向けて真摯に聞くことを意識する。 ・思考力育成の問題に取り組む。	・ホワイトボードや思考ツールを用いて、自分やグループの考えを可視化し、より深い学びをすることができた。 ・聞く力がついてきた。 ・思考力育成につながる長文問題や、問題作りに取り組んだ。	・1人1台のタブレットを、対話的な学習にどう活かすかを研究する。 ・書く力の育成に取り組み、文を要約したり、要点をまとめたりできるようにする。 ・引き続き、思考力育成に取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて生活し、課題や自主学習に意欲的に取り組もうとしている。 ●難しいと思う課題を避ける傾向があり、最後まで諦めずに取り組もうという意識に乏しい。	・課題や自主学習に進んで取り組み、目標を達成する喜びを感じるとともに、学ぶ楽しさを感じることができる。	・授業に直接体験を取り入れたり、ICT等を使ったりして、楽しく分かりやすい授業を行い、主体的に学習に取り組む意欲をもたせる。 ・毎時間、学習のめあてと振り返りを確認し、自己評価力をつける。	・チャイムスタートの再確認。 ・学習態度(姿勢、学習用具の準備)の見直し。 ・振り返りの時間を確保し、自らの成長を学習内容・方法から実感できるようにする。	・チャイムスタートを意識して休み時間を過ごせるようになった。 ・準備については個人差がある。 ・活動の時間を多くとってしまい、振り返りの時間を確保できないときがあった。 ・難しい問題も挑戦し、互いに教え合いながら学習に取り組めた。	・振り返りの時間を確保し、次の学習につながるような焦点化した振り返りの検討。 ・主体的な学びにつながるような自主学習の在り方を模索する。 ・根気よく学習に取り組む児童の育成。

令和2年度 学力向上ロードマップ

